

暑い夏、屋外でのやけどに注意！

最高気温が 35℃を上回る猛暑日が毎日のように続いています。

過去、東京都が実施したアンケート調査において、日差しに熱せられた公園遊具やアスファルト等によるやけどの危険が明らかになっています。また、屋外のベンチや金属製品にも、思わぬやけどの危険が潜んでいます。

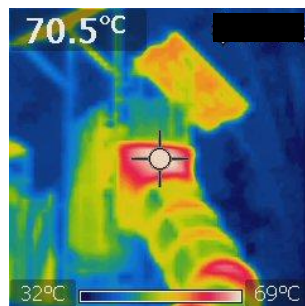


こんなところにやけどの危険！

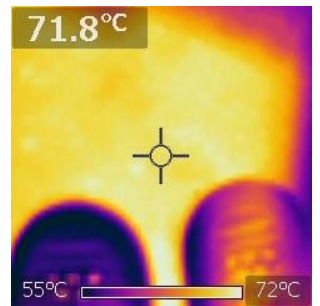
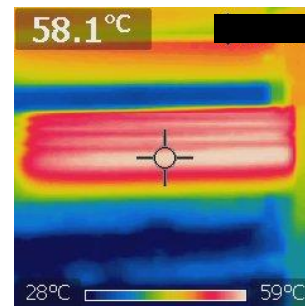
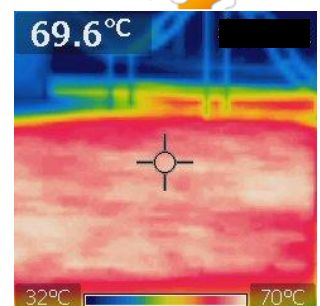
- 日差しで滑り台が熱くなっていたため、おしりをやけどした。(1歳)
- 歩道で転んで手を付いたときに、熱かったらしく手が赤くなった。(1歳)
- 住宅のベランダが高温になっていて、素足で立ったら赤くなってしまった。(60歳)

日差しに熱せられた遊具やベランダは 70℃以上になることも！

左が写真、右が表面温度。撮影時気温 31.0℃湿度 45%



※滑り台は、熱いため使用禁止になっていました。



⚠️ 事故を防ぐポイント

- 大人に比べ皮膚が薄いことなどから、**子供のやけどは重症化**する傾向があります。高温になるものが周囲にないか確認しましょう。
- 夏の炎天下では、住宅のベランダ床やサッシの金属部など**直射日光にさらされたところが高温**になっています。**素手や素足で触れない**ように注意しましょう。

65℃以上の石材料や 55℃以上の金属に 10 秒以上触れると、やけどを負う可能性があるといわれています。

【参考】

《ヒヤリ・ハットレポートNo.8「乳幼児のやけど事故防止ガイド」》東京くらしWEB（平成26年2月）

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/hiyarihat/documents/hiyari-guide8.pdf>

《ごんろのグリルでの子どものやけどに注意—使用後でもグリル窓は高温です—》国民生活センター（平成29年9月）

https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20170921_1.pdf

詳しくはこちらをご覧ください。



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp>



問合せ先

東京都生活文化局消費生活部生活安全課

電話 03-5388-3055